

■大型書店と併設した知の文化・交流拠点が完成

昨年10月に桶川駅前商業ビルの3階に桶川駅西口図書館がリニューアルオープンし、市制45周年と相まって連日多くのメディアで紹介されました。新図書館のフロア面積は、約2.5倍の1,511㎡に拡大、閲覧席は約3倍の115席に増やし、蔵書も約3万冊増えて約9万冊に増冊となりました。

メディアで紹介されたのは、単に規模が大きくなっただけでなく、図書館の隣に約50万冊を取り扱い、1,252㎡のフロア面積を持つ地域最大級の大型書店が新店し、同じフロアに図書館と書店が隣接するという、全国でも珍しい取り組みが大きな反響を呼んだためでした。

図書館と書店を結ぶ共有空間には、企画展示スペースやイベントスペースが設けられ、カフェも営業しています。共有空間では、土日を中心に地元の大学やサークルなどのワークショップやコンサートなどが開催され、知の交流が生まれています。フロア全体を「OKEGAWA honプラス+」と名付けたこの新しい取り組みは、新たな文化・交流拠点として市内外から大きな注目を集めています。

■みんなでつくり 育む交流拠点都市を目指す

桶川市に生まれ育った小野克典市長は、市議と県議をそれぞれ2期務めた後、3年前の市長選に立候補し初当選を果たしました。元気で活力ある持続可能なまちづくりを目指して、「桶川市を元気にする5つの誓いと44の宣言」を掲げ、就任当初から現場に赴き多くの声を聴きながら、交通の要衝としての桶川市の利便性を最大限に生かしたまちづくり事業を推進しています。任期一期目を締めくく

桶川市の概要

人口(H28年1月1日 一住民基本台帳一)	75,071人
世帯数(同上)	31,036世帯
平均年齢(H28年埼玉県(丁)字別人口調査)	46.5歳
生産年齢人口比率(同上)	60.8%
面積(H26年全国都道府県市町村別面積調)	25.35km ²
名目市内総生産(H25年度市町村経済計算)	1,909億8,800万円
製造品出荷額等(H26年工業統計)	1,153億5,937万円
事業所数(H26年経済センサス)	2,330事業所



官民協働による「OKEGAWA honプラス+」。イベントが開催される週末だけでなく、仕事や学校、買い物帰りに気軽に立ち寄れる市民の交流の場となっています。



る本年度は、「桶川市第五次振興計画後期基本計画」のスタートの年でもあり、また、今までに経験のない複数の大規模プロジェクトも継続的に推進する重要な年度でもあります。

懸案であった老朽化が進んだ市庁舎の建替えは、中山道桶川宿の旅籠をイメージし、限られたスペースを効果的に活用した「兼ねる」庁舎をコンセプトと2018年(平成30)に開庁予定です。新庁舎には、災害時の対策本部としての機能を持たせ、免震構造を備える一方、駅からの通りに面する「市民ゾーン」は一部を木造建築にするなど、周辺環境にも配慮した庁舎となる予定です。

市庁舎と同様に、長年の課題である駅東口の整備についても地域住民と協議しながら用地取得を進めています。駅前広場を整備し、エレベータ設置やバリアフリー化など、市の玄関である桶川駅の利便性を向上させるために、県と協力して事業の促進を図っていく予定です。さらに、旧陸軍飛行学校の木造校舎群が現存する希少性の高い遺構である「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場」の整備を推進し、今後の活用につなげる予定です。太平洋戦争時、特別操縦見習士官などの訓練学校であったこの建物は、歴史的価値が高く、この貴重な遺構を整備し保存することで、平和を考える拠点として、また、観光の拠点としても、桶川の魅力につながると考えています。

交通の整備や大型プロジェクトが次々と推進される中で市長に就任した小野市長は、その責務を痛感しつつ、桶川市の将来像「みんなでつくり 育む 活気あふれる交流都市」実現に向けて、職員、そして桶川市民一丸となって取り組んでいます。